



撮影:藤本健八

建築主 真言宗別格本山 東長寺
設計者 松井建設株式会社
取締役社長 松井 隆弘
施工者 松井建設株式会社九州支店
執行役員支店長 盆子原 和利
建築物の用途 寺院(五重塔)
構造・規模(階数) 木造(5層)

設計趣旨

本建築は、弘法大師ゆかりの博多東長寺にふさわしい五重塔の計画を進める中で、境内の建物位置を準防火地域の範囲に収まるように配置し、木造の採用を可能とした。木材は国産桧を使用し、構造には金物を極力使用しない伝統構法を踏襲することにより、後世に残る純木造の五重塔を建立するに至った。

構造設計においては、一般の木造住宅等のような壁量による許容応力度設計を行うことが困難であった。そのため、木材のめり込みを考慮した半剛接ラーメン架構にモデル化し、応力解析を行った。継ぎ手・仕口は、国宝・重要文化財を踏襲・検討したなかにオリジナルを加えて全て図面化し決定した。

講評

化粧性や強度で選別した優良な国産桧赤身材を、細部にわたり使用しています。桧赤身材は、日本古来より神社仏閣に使用されており、耐久性が高く加工性も良い美しい木材です。しかし、木材資源が充実してきた現在でも、大断面材料や広幅の板材料が得られる桧は貴重です。材料の調達にも苦労が伺えます。また、伝統構法を踏襲した、後世に残すべき技術を駆使しています。その一方、最先端素材を応用するとともに、独自の接合法を組み合わせる綿密な構造解析を実施し、地震対策としてこれまでの問題を克服した点で注目に値します。屋根の木組み、塗装、金物等の細部から全景にわたり気が配られ、近くから見ても離れてみても美しく造られています。日本における木造技術のレベルの高さを意匠的に、構造的に示した純木造五重塔です。